



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第29号(R4. 10. 13)

河東中に新しい文化の種がまかれる文化祭が明日開催

3年ぶりに本格的な文化祭が明日開かれます。合唱コンクールは新たな試みであり、河東中に合唱という新しい文化が生まれようとしています。先輩たちのクラス合唱や学年合唱を見てない世代で、お手本もなく全く手探りで新しく創り上げてきました。歌うこと自体コロナ禍でできなかったのが、まともに歌えるようになったのはこの2か月程度でした。練習やリハーサルを見ていると、さすが河東中生と思うほど0から新しいことを創れるものだと感心しています。新しい伝統を生み出せる予感がしています。



歌声が響き合う校舎というものは本当にいいものです。この数か月、生徒も教師も心が耕されたような気がします。明日はいよいよコンクール本番です。久しぶりに体育館に全校生徒が集まります。保護者の参観もあります。多少なり緊張するでしょうが、これまでの練習成果を十分に発揮してほしいです。何よりも、クラスや学年の中で心を通わせ心を一つにして思い切り歌ってください。これまでの団結をより深める一日にしましょう。

野球部、宗像区大会で第3位、筑前大会に進出!

8日(土)みずがめの郷野球場で行われた宗像区新人軟式野球大会で、本校野球部は3位という成績を残し、筑前地区大会への切符を手に入れました。筑前地区大会は、10月29日(土)那珂川市の西畑運動公園野球場で開催されます。対戦相手は糸島区1位の前原東中学校で、9:00プレイボールです。引き続きみんなで応援しましょう。

筑前地区駅伝大会

男子第3位、女子準優勝、県大会へアベック出場!

12日(水)博多の森陸上競技場周辺周回コースで開催された筑前地区中学校駅伝競走大会において、本校陸上長距離部は男子が第3位、女子が準優勝という素晴らしい結果を出しました。男女そろっての県大会出場となります。駅伝県大会は11月12日(土)博多の森陸上競技場周辺周回コースで行われます。応援よろしくお願ひします。

第3回かとう学園運営協議会が本校で開催されました

「かとうの子どもたちを、学校だけでなく地域の方や保護者の方総がかりでたくさんの大人の手で育てる」というのが学園運営協議会の理念です。今年立ち上がったこの協議会の3回目が本校で開催されました。今回の協議会の柱は、中学校での子どもの姿・特に授業の様子を見て、9年間の教育の到達点を確認しようとするものです。そこで、15名の協議会委員の皆様と9名の事務局員が中学校の授業参観をすることにしました。また、協議会委員の皆様と本校生徒会役員が「中学生が地域に思うこと・地域が中学生に思うこと」を小グループに分かれて意見交換をしました。

全クラスが授業を公開しました



8年生は学年合唱を公開しました

生徒会役員と委員さんの意見交換



授業参観後に、委員の皆様から次のような感想を頂きました。

【A委員】授業が楽しそう。英語の授業では、日本語をしゃべらず、英語で指示をしている。タブレットが配布されているが、それを活用した授業が工夫されている。合唱コンクールなども、子どもたちの底力を見せてもらい、本番の姿も楽しみ。

【B委員】合唱に感動し、涙が出た。文化祭で合唱をすることで、保護者も感動すると思った。生徒とたくさんの先生との関係性が良かった。各教室に観葉植物があるなど、美しい教室環境だった。のびのびして学習に取り組める素晴らしい環境だった。

【C委員】自分の中学生時代と比べて、誰一人として、荒れていない。茶髪などもないし、上靴のかかをとを踏んだりもしていない。とても落ち着いている。何が昔と違っているのか。

【D委員】社会科の授業で、アメリカのスーパーマーケットを切り口に授業が展開されていて、生徒も興味を持って授業に取り組んでいると思う。

【E委員】小学校の少年野球のコーチをしているが、だんだん、4・5・6年生になると挨拶をしなくなっている。中学生は、みんなにこにこしている。先生との関係がビリッとしている。先生と生徒のコミュニケーションがよく取れているように思う。反抗期になっても良い時期なのに、落ち着いているのは、人間関係がすべてのように思う。

「なんでだろう」と思うことの大切さ

～ 福岡出身で唯一のノーベル賞受賞者・大隅良典さんの言葉 ～

先週から今週にかけて、ノーベル賞受賞者が発表されています。1901年に始まったこの賞で、これまで日本人が受賞したのは31人にのびります。この中に一人だけ福岡県出身者がいます。大隅良典(おおすみよしのり)さんです。今から6年前、ノーベル医学・生理学賞を受賞されました。県立福岡高校出身で、「オートファジー(自食作用)の仕組みの解明」の研究が評価されたものです。簡単に言うと、人間や動物が1週間くらい食物をとらなくても生命活動が維持できるのは、あるタンパク質が別の古いタンパク質を食べて再利用するオートファジー(自食作用)があるからです。その仕組みを世界で初めて発見したのが大隅さんです。この発見によって、がんやアルツハイマーなどの治療につながると言われています。つまり、自分の体内にあるタンパク質ががん細胞を食べてくれる可能性があるということです。この自食作用または自浄作用が応用されれば、これまで難しいとされた治療への道が開かれていくわけです。

大隅さんは、ある講演でこんな話をしています。

「私はそもそも子供の頃から音楽の才能もなく、運動もからっきしダメでした。私は子供の頃から競争というものが苦手でした。サイエンスにおいてゴールはありません。何か分かったと思えば、すぐ次のゴールが見えてきます。今、日本では若い人たちが研究者になろうと思わなくなっています。日本の将来を考えると、これはあまり良い事とは言えません。『なんでだろう』と思ったとき、『それを知りたい』と単純に思えるようになって欲しい。」と話しています。

河東からほんの20kmほど西南にある香椎で生まれ育った大隅さんが、世界に誇る大発見をしたことをぜひ知っておいってください。そして、河東中生徒も日常生活の中で『なんでだろう』と思うことを大切にしてほしいと思います。『それを知りたい』と思えば、すぐに答えてくれる先生がいます。タブレットで調べることもできます。疑問の世界を広げてほしいです。その扉を開く方法も見つけていってください。